

令和5年度

「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」
に関する報告書

【目次】

1. 教育長・教育委員名簿
2. 委員会開催・審議状況等
3. 令和5年度教育委員会活動状況
4. 主要施策の点検・評価
5. 点検評価委員による意見

令和6年9月
東村教育委員会

職名		委員氏名	任 期
教育 委員 会	教 育 長	比 嘉 鶴 見	令和3年 7月 1日から令和6年 6月30日
	教 委 長 職 務 代 理	安 和 博 幸	令和3年 6月 18日から令和6年 3月31日
	教 育 委 員	玉 村 浩	令和5年 7月 1日から令和9年 6月30日
	教 育 委 員	西 銘 美 恵 子	令和5年10月 1日から令和9年 9月30日
	教 育 委 員	島 袋 要	令和5年10月 1日から令和9年 9月30日

委員会開催・審議状況等（令和5年度）

委員会開催 (審議年月日)	議案番号等	議案名	採決年月日	備考
4月14日	報告 1	教育長諸般の報告	4月14日	第 1 回
	議案第1	令和4年度教育委員会年間計画（案）について		
6月15日	報告 2	教育長諸般の報告	6月15日	第 2 回
	議案第 2	令和5年度一般会計補正予算（第1号）について		
	同意第1号	教育長の職務を代理する者の氏名について		
6月28日	議案第 3	令和5年度 指導主事の異動内申について	6月28日	第 3 回
8月18日	報告 3	教育長諸般の報告	8月18日	第 4 回
	議案第 4	令和6年度使用小学校教科書用図書採択について		
	議案第 5	令和6年度使用中学校教科書用図書採択について		
	議案第 6	令和6年度使用特別支援関係教科用図書採択について		
	議案第 7	令和5年度東村立小中学校電子黒板設置事業契約について		
8月31日	報告 4	教育長諸般の報告	8月31日	第5回
	議案第 8	令和5年度一般会計補正予算（第4号）について		
	議案第 9	令和4年度「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」に関する報告について		
9月22日	報告 5	教育長諸般の報告	9月22日	第6回
	議案第10	令和5年度管理職人事の異動内申について		
10月3日	報告 6	教育長諸般の報告	10月3日	第7回
	—	教育総合会議について		
11月28日	報告 7	教育長諸般の報告	11月28日	第8回
	議案第11	令和5年度一般会計補正予算（第5号）について		
	議案第12	令和5年度一般会計補正予算（第6号）について		
1月25日	報告 8	教育長諸般の報告	12月20日	第9回
	議案第13	令和6年度教育員会当初予算（案）について		
2月19日	報告 9	教育長諸般の報告	2月19日	第10回
	議案第14	令和6年度学校管理職員の異動内申について		

2月19日	議案第15	令和6年度学校一般教職員の異動内申について	2月19日	第10回
	議案第16	令和5年度一般会計補正予算（第10号）について		
	議案第17	区域外就学許可について		

令和5年度教育委員会活動状況

期 日	内 容	備 考
令和5年4月10日	村内小中学校入学式	
令和5年4月14日	第1回教育委員会議	
令和5年4月25日	目標管理委員会	
令和5年5月29日	地域教育懇談会（高江区）	
令和5年6月5日	地域教育懇談会（有銘区）	
令和5年6月6日	地域教育懇談会（宮城区）	
令和5年6月8日	地域教育懇談会（平良区）	
令和5年6月9日	東村SD委員会総会・文化講演会	
令和5年6月13日	地域教育懇談会（慶佐次区）	
令和5年6月15日	第2回教育委員会議	
令和5年6月28日	第3回教育委員会議	
令和5年7月27日	第4回教育委員会議	
令和5年8月31日	第5回教育委員会議	
令和5年9月22日	第6回教育委員会議	
令和5年10月12日	第7回教育委員会議	
令和5年11月28日	第8回教育委員会議	
令和6年1月25日	第9回教育委員会議	
令和6年2月22日	目標管理委員会	
令和6年2月29日	第10回教育委員会議	
令和6年2月27日	総合教育会議	
令和6年3月9日	村立中学校卒業式	
令和6年3月18日	村立幼稚園卒園式	
令和6年3月19日	村立小学校卒業式	

令和5年度教育委員会主要施策の点検・評価表

教育理念：『地域で育て 世界で活躍する人材の輩出の推進』

一生きる知恵（ジンプン）と心（チムググル）と健康な体（ガンジュウナドゥ）を育む教育文化の創造

教育目標

心身ともに健康で豊かな情操と自主性、創造性、国際性に富む調和のとれた人格形成をめざし、郷土を愛し社会の建設に貢献し得る村民の育成を図る。

評価指標 A：十分達成できた。 B：ほぼ達成できた。 C：不十分である。 D：実施できなかった。 ※（ ）内は前年度評価

I. 学校教育の充実

施策項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
(1) 学力向上の推進	幼児児童生徒一人一人の「確かな学力」を向上させ、「生きる力」を育む	①確かな学力を向上させ、生きる力を育むことを目指した総合的な学力向上を推進する。 ②幼児・児童・生徒の実態や課題を明確にし、日常的な実効性のあがる取り組みを推進する。 ③幼児・児童・生徒一人一人に各学年で身につけさせべき内容を確実に定着させる取組の充実を図る。	○村学推総会・文化講演会を実施できた。（部員・保護者計59名 中学生参加） ○学校SD委員会部会を開催した。 ○各学校、互見授業や校内研修等で、児童生徒の実態をもとに、授業改善に取り組んでいる。 ○互見授業等で、管理職を含めた授業改善を実践し、「ふり返り」の視点を組織で統一して取り組んでいる。	B(B)	学校・家庭・地域・行政が更に連携協力して推進していく。
		④本年度の数値目標を設定し、その達成に向けてマネジメントサイクルに基づき、実効性のある取組を推進していく。 ⑤児童生徒一人一人に応じた学力の伸長と自ら学ぶ習慣を身に付けさせるため各種検定（英語、数学、漢字等）の積極的取得を支援する。 ⑥中学生の基礎学力の向上を目的にした中1、2対象の夏季講座と高校受験への対策を目的とする中3対象の村営学習塾を継続する。 ⑦「学習を支える力」の育成を図るために、家庭や地域と連携しながら「基本的な生活習慣」の確立を図り、幼児・児童・生徒の学習の基盤を整える活動を推進する。	○中学校の定期テスト、学びのたしかめ等の結果を受け、授業改善を図った。 ○全国学力学習状況調査において中学校3年生英語「聞くこと」の領域が全国平均を上回る。 ○小5から中3までオンラインで参加できた。 ○学校保健委員会、村養護教諭研修会において、各学校の課題解決に向け、3校担当が連携・協力することができた。	B(B) A(C) A(B)	児童生徒が自分の学びがどの程度なのかを把握し、次の学びへ学習改善を図っていく。 各種検定の積極的な取得を推進する。
				A(A)	各学校が主体的に取り組むための学校保健委員会の運営に更に努めていく。

施策項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
(2) 幼稚園教育の充実	幼児一人一人の発達の特徴を生かした幼児教育の改善・充実	<p>① 教育課程の効果的な推進を図る。(生きる力の基礎を育むことを目指し、創意ある教育課程の編成・実施)</p> <p>② 環境を通して行う教育の充実を図る。(心情、意欲、態度を育む、人的・物的・空間的環境構成の充実)</p> <p>③ 遊びを通して総合的な指導の充実を図る。(幼児期の発達の特性を踏まえた指導の充実)</p> <p>④ 基本的な生活習慣の形成を図る。(健康で安全な生活習慣を身に付け、自立心や道徳性の芽生えを培う)</p> <p>⑤ 園内研修の充実と幼保小中連携強化を図る。(実践的指導力の向上と信頼される幼稚園づくりに努める)</p>	<p>○国頭地区幼児教育研究協議会へ園長及び2幼稚園教諭を派遣し、教育課程・村研修計画に反映することができた。</p> <p>○各園において、環境構成を工夫して、幼児が主体的に学べるよう実践できた。</p> <p>○幼児の興味関心を把握した環境構成を実践していた。</p> <p>○子供の様子を捉え、声掛けや幼児同士の意図的な関わりを仕掛けている。</p> <p>○幼保連携、幼小連携の研修会を学期に1回実施することができた。</p>	B(B) A(A) B(A) A(A) A(A)	<p>保幼小の架け橋プログラムの更なる推進を図っていく。</p> <p>園長及び小学校教諭に対する幼児教育の理解を図っていく。</p> <p>2園及び保育所4歳児担当が連携して更なる保育の質の向上に努める。</p> <p>特別は配慮を必要とする園児への個に応じた支援を行う必要がある。また、家庭教育の重要性を保護者への周知していく。</p> <p>幼稚園児と小学校1年生にとって双方に学びと新たな実践を推進していく必要がある。</p>
(3) 教育課程の効果的な推進	生きる力を育み、創意工夫を生かした教育課程の編成・実施	<p>①「豊かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を重視し、学校教育全体として調和のとれた教育課程を編成し実施するとともに、各教科等の年間授業時数の実質的な確保に努める。</p> <p>②子ども連へのよりよい教育を行うために、「教師の働きがい・働きやすさ・心身の健康」を目指す働き方改革を推進する。</p>	<p>○総授業時数は確保することができたが、教科によってはばらつきがみられた。</p> <p>○3校共通実践として、学期始めに放課後の時間確保のための教育課程の見直しを図った。</p>	B(A) A(A)	<p>各教科の時数が確保できているかどうか定期的な確認に努める必要がある。</p> <p>教師による学校評価の結果で働き方改革が推進できたのか成果指標とする。</p>
(4) 学習指導の工夫・改善・充実	「わかる授業」の構築における指導体制や指導方法の確立	<p>①児童生徒が授業と社会とのつながりを実感できるキャリア教育の視点を踏まえた日常的な学習や体験活動等の実施に努める。</p> <p>②指導力向上のために教師一人一人が主体的に参画する校内研修や校種間、学校間の相互授業参観の実施を促進し、授業づくりを全校体制で日常的な実践に努める。</p>	<p>○地域の方の協力のもとていっだ学校を実施(21講座)することができた。</p> <p>○各学校において、互見授業(管理職や他の教諭が参観する授業)を全職員1回以上実施</p>	A(A) B(B)	<p>魅力ある学校づくりとの関連を図った体験活動を推奨する。</p> <p>全校体制で、児童生徒の「問い」を生かした主体的な授業改善を更に推進していく。</p>

施策項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
		<p>③「学力向上推進プロジェクト」が掲げる「授業改善」を取り組みの重点と置き、「「問い」が生まれる授業サポートガイド」の推進を通して日々の授業の充実を図る。</p> <p>④「全国学力・学習状況調査」や「県学力到達度調査」「学力向上WEB実力調査」をCheck・Actionの機会とし、各教科の年間指導計画へ反映させ取り組む。</p> <p>⑤学力向上Webシステムの効果的な活用を図り、児童・生徒個々の実態を把握し、きめ細やかな支援の充実を図る。</p>	<p>○複式の授業においても（学校計画訪問）、児童の気づきを生かしためあてを設定し主体的に学ぶ児童の姿が見られた。</p> <p>○各学校の調査結果を検証改善サイクルシートに取り組み授業改善に取り組んだ。</p> <p>○全国学力学習状況調査終了後にすぐに自校採点の結果を分析し、課題策を全校体制で構築することができた。</p>	B(B)	授業の導入で教師が一方的にめあてを提示する授業が見られ、問いを生かした授業を推進していく。
(5) 道徳教育の充実	自他の生命を尊重する心を基盤に「豊かな心」を育む	<p>①道徳教育を道徳の授業を要として、学校の教育活動全体を通じて計画的・発展的に指導するとともに、全体にわたって調和的に補充、深化、統合を図る。</p> <p>②保護者や地域への道徳の授業公開、豊かな体験活動への参加・協力等を通して、学校・家庭・地域社会との連携を図る。</p> <p>③「私たちの道徳」（教科書）の効果的な活用を図る。</p>	<p>○校内研における代表授業を実施し、全校体制で授業改善に取り組むことができた。</p> <p>○授業参観にて、適宜授業公開が行われている。</p> <p>○授業において、指導計画に基づいた計画的な指導が行われている。</p>	B(B)	より授業改善につながる実行性のある取組を推進していく。
(6) たくましい心と体をはぐくむ教育の推進	心と体を一体として捉えた、健康の保持増進と体力の向上	<p>①健康教育の推進及び児童生徒の健康課題を解決するために、三師、栄養士、保護者、専門機関と連携のもと、学校保健委員会を開催し、組織的・計画的に取り組む。</p> <p>②喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育や性（エイズ）教育においては、児童生徒の発達段階を考慮し、特設授業や教科等における指導の工夫・改善を図る。</p> <p>③体育・スポーツ活動指導を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、基礎的な体力の向上を図る。</p> <p>④新体力テスト及び泳力調査を計画的に実施・分析し、各学校の体的課題等を明確にして、学校の教育活動全体を通して体力・泳力の向上に努める。</p>	<p>○学校保健委員会（6月と2月の2回実施）を実施し、関係機関などと連携することができた。</p> <p>○第2回学校保健委員会において、各学校の実態に応じた外部講師による特別授業が実施された。</p> <p>○個人の目標を持って実技の向上を図り、楽しく授業に参加。</p> <p>○持久力の向上に向けての各学校の取組（体育朝会など）が実践された。</p>	B(B)	学校保健委員会での助言などを受け、各学校の課題に即した主体的な取組を推進していく。
			<p>○第2回学校保健委員会において、各学校の実態に応じた外部講師による特別授業が実施された。</p> <p>○個人の目標を持って実技の向上を図り、楽しく授業に参加。</p>	A(A)	各学校の課題に応じた特設授業の計画を継続して取り組んでいく。
			<p>○持久力の向上に向けての各学校の取組（体育朝会など）が実践された。</p>	B(B)	運動の楽しさを実感できるよう、集団での関わり方を重視する必要がある。
				B(B)	目標数値（全国・県平均）を活用するなど児童生徒に目標を持たせた取組を実践する。

施策項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
(7) 生徒指導の充実	信頼関係を基盤とした生徒指導の充実	<p>①各学校においては生徒指導体制・教育相談体制の確立を図り、児童生徒の自己指導能力の育成に努める。</p> <p>②各学校において、いじめ防止等のための対策に関する基本的な方針を定めるとともに、専門的な知識を有するその他の関係者により構成される組織を設け、いじめに對する未然防止・早期発見・早期対応に努める。</p> <p>③不登校児童生徒への対応としてその指導・援助や連携の在り方等について情報を共有し対策の充実を図る。</p> <p>④村生徒指導連絡協議会で、児童・生徒の生活実態を把握し、積極的な取組を図る。</p> <p>⑤村学校支援連絡会で、学校、教育委員会、福祉保健課、スクールソーシャルワーカー、教育相談員、臨床心理士、スクールカウンセラー、児童委員等の情報交換を通して、各関連機関の役割分担を確認し、緊密な連携の下、児童生徒及び家庭の効果的な支援を図る。</p> <p>⑥警察や福祉保健課、少年指導員、民生委員児童委員等の関係機関との緊密な連携を図る。</p>	<p>○生徒質問紙において「先生はあなたのよいところを認めてくれますか」57.1%と県平均を上回っている(県44%)</p> <p>○各学校においていじめに関する校内研修が計画され、実践されている。</p> <p>○東村不登校支援の手引を作成し(3月策定)、令和6年度の施策へ反映するよう努めた</p> <p>○生徒指導連絡協議会を開催し、各学校生徒指導担当との情報共有を行った。</p> <p>○村学校支援連絡会を実施することができ、関係機関との情報共有ができた。</p> <p>○警察や福祉保健課からの情報提供により早期対応につながった事例があった。</p>	<p>B(A)</p> <p>C(B)</p> <p>C(B)</p> <p>B(A)</p> <p>B(B)</p> <p>B(C)</p>	<p>不登校の児童生徒や課題のあるお子さんについてSC、SSW等の面談につながりがないケースがあった。</p> <p>いじめがきっかけで学校にいけなくなる等いじめの重大事態につながりかねない事例があった。</p> <p>中学校の不登校(30日以上)の欠席)生徒の割合が25%という非常に高い割合だった。</p> <p>年間2回の計画だったが1回しか実施ができなかった。(指導主事不在)</p> <p>福祉保健課と連携を密にして、保護者に寄り添った対応を推進していく。</p> <p>民生委員と学校との連携が課題である。</p>
(8) キャリア教育の充実	望ましい勤労観・職業観を育む発達段階に応じた取組の推進	<p>①学校はキャリア教育に係る「校内委員会」を設置し、推進体制の確立を図る。</p> <p>②児童生徒に身に付けさせたい「基礎的・汎用的能力」を構成する4つの能力を踏まえた、各教科等の年間学習指導計画の作成に努める。</p> <p>③ガイダンス機能を生かした定期的な進路指導の充実に努める。</p> <p>④職場体験活動(小：職場見学、中：職場体験)を実施し、将来の夢や希望を育み、望ましい勤労観・職業観の育成に努める。</p> <p>⑤の項目は削除</p>	<p>○企画委員会、校内研修等で推進体制を確立している。</p> <p>○各教科、領域等との関連を図られた計画を作成。</p> <p>○入学相談会の実施。</p> <p>○委員会にて事業所との調整を行い、小中とも、計画どおり実践できた。</p>	<p>B(B)</p> <p>B(B)</p> <p>A(A)</p> <p>B(B)</p>	<p>実践後の振り返りを充実し、次の指導に生かしていく必要がある。</p> <p>計画に沿った実践ができていくか、検証する必要がある。</p> <p>相談されたことを実践できているかを見取る必要がある。</p> <p>教育委員会と学校が更に連携して推進していく。</p>

施策項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
(9) 特別支援教育の充実	個々の教育的なニーズの把握と全校体制による教育的支援	①学校においては特別支援教育コーディネーターを位置づけ、特別支援教育における校内委員会の設置等の機能化を図り、学校全体の協力体制を確立する。 ②特別支援学級の児童生徒と通常学級の児童生徒との交流学習等を教育計画に位置付け推進する。 ③学校でのきめ細やかな指導を行うための「個別の指導計画」や長期的な視点で教育的支援を行うための「個別の教育支援計画」を作成し、指導の充実を図る。 ④校内及び村教育支援委員会の機能化を図る。 ⑤特別支援教育支援員研修会の充実を図り、支援が必要な児童・生徒それぞれのニーズにあった支援の充実を図る。	○特別支援巡回訪問による相談が計画通り実施できた（年間12回） ○各教科等での意図的な交流が図られた。 ○日常的に活用し、定期的な評価を実施することが必要である。 ○村教育支援委員会に向けて各学校との事前の調整を行った（学校訪問）	B(B) B(B) B(B)	校内支援委員会を核とした全校体制での支援の在り方が課題である。（担当のみでの対応） 自立活動の授業実践が課題である。 評価について、特別支援教育支援員等との連携が必要である。 年々対象となる児童生徒が増加しており、学校でいかに対応・支援するかが課題。（まずは学校でできる支援） 支援員の困り感を共有し、学校との連携を図っていく。 各学校の課題に応じた指導を推進していく。 指導計画に沿った実践を継続していく。 各学校の課題に応じた主体的な取組を推進が必要である。
(10) 食育の推進	基本的な生活習慣の確立と健全な食生活を実践することのできる能力の育成	①給食の時間をはじめ関連教科における食に関する指導の充実を図る。 ②食に関する指導の全体計画及び発達段階に応じた各学年毎の食に関する年間指導計画の作成に努める。 ③家庭や地域における児童生徒の基本的な生活習慣に係る課題について共通理解を図り、課題解決に向けた取組に努める。	○各教科等との関連が明確である。 ○学校保健委員会において、各学校の課題改善に向けた話し合いができた。	A(A) A(A)	各学校の課題に応じた主体的な取組を推進が必要である。
(11) 学校安全・防災教育の充実	幼児児童生徒の危険回避能力の育成	①学校安全の推進に関する計画を策定し、学校における安全教育と安全管理の充実を努める。 ②「危機管理マニュアル」を効果的に活用し、避難訓練や校内研修等を通して、防犯、防災、交通安全教育等の充実を図り、幼児児童生徒の危険回避能力の育成に努める。	○県の安全プログラムに沿って各校通学路の安全点検を実施することができた。 ○各学校の実態に応じた防災訓練を実施することができた。	A(A) A(A)	各関係機関との連絡を図り、計画的に安全点検を実施する。 事前調整なく対応できるか、実施を検討する。児童生徒の振り返りから実施方法を検討する。
(12) 平和教育の充実	生命の尊重を基盤に、世界の平和を希求する心を育む	①学校教育活動全体を通して、発達の段階に応じた平和教育の充実に努める。 ②学習指導要領の内容を踏まえ、体験的な学習や地域の人材活用等の学習指導の工夫・改善に努める。 ③他の国の文化や生活様式、価値観を理解し尊重する態度を育てる教材を取り上げ、異文化を理解する態度の育成に努める。	○事前・事後学習がしつかり行われていた。 ○戦争体験者等地域人材の活用（東校）	A(A) A(A)	村内の戦跡について調べる計画を作成する。 博物館の企画展と関連した東村の戦争を学ぶ機会を設定していく。 異文化交流事業を継続して推進していく。

施策項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
(13) 国際理解教育・外国語教育の推進	自他の文化理解と外国語によるコミュニケーション能力の育成	①中学校英語教育や小学校外国語活動等でA L Tを積極的に活用し、語学指導、国際理解教育の一層の充実を図る。 ②中学生海外短期留学やE S L英語キャンプ派遣事業への参加を通して、海外文化に触れ、国際性豊かな視野の広い人材の育成を図る。 ③沖縄国際大学留学生との交流学習の一層の充実を図る。	○小学校4年生にて3校集合した外国語活動の授業を実践した。(教員3名、児童27名) ○海外派遣者5名。 ○ESL英語キャンプ参加者6名。	A(A) A(A)	3校合同の授業実践を推進する。 継続した取組を推進していく。 海外派遣の経費が増大しており、国庫補助金等の活用を検討する必要がある。
(14) 情報教育の推進	情報活用能力の育成と情報モラル指導の充実	①ICTを効果的に活用した学習指導方法の工夫・改善に努める。 ②プログラミング学習を通じて情報活用能力を育成する。 ③児童生徒がコンピュータの多様な利用(情報モラル含む)ができるよう指導の充実を図る。 ④全職員がICTを活用した授業が展開できるよう、実技研修の充実を図る。 ⑤学校ホームページを定期的に更新し、保護者や地域住民へ積極的に情報を公開・提供する。	○東校と沖縄国際大学留学生との交流体験の実施計画は行ったがコロナ感染症拡大防止のため直前に中止となった。 ○オンラインでの集合学習を実施した。 ○ICT支援員を活用したプログラミング教室を実施 ○講演会等を通して、情報モラルの理解が図られた。 ○学校訪問において各教科でのICTを活用した授業実践(電子黒板の活用等)が多く見られた。 ○学校により、保護者への周知が充実している。 ○東校が環境教育実践校として推進することができた。	D (評価なし) A(A) B(B) A(A) A(A)	東校のみの留学生との交流だけでなく、他の2校の異文化交流事業の推進を図る。 他市町村との交流学習を充実させる。(交流事業との関連) プログラミングの計画的な実践を推進していく。 実際の活用に関する振り返り。 各学校の校内研修にてICT支援員による研修を設定する。
(15) 環境教育の充実	地球環境の保全やよりよい環境の創造のために、主体的に行動する資質、能力の育成	①環境に「親しむ活動」「しくみを学ぶ活動」「保全・創造する活動」の3つの視点をふまえて全体計画を作成し、学校教育活動全体を通して実践化を図る。 ②地域人材や社会教育施設(村博物館)等を積極的に活用して、環境教育の学習機会の拡充に努める。 ③地域で行われる自然探索やクローン活動等への参加を促し、実生活との関連を重視した環境教育の充実を図る。	○学校の履歴を残し、新たな課題解決へ繋げていく。 学校SD委員会専門部会(連携協議部会)で、取り組めることを考案する。	A(A) A(A) B (評価なし)	学びの履歴を残し、新たな課題解決へ繋げていく。 学校SD委員会専門部会(連携協議部会)で、取り組めることを考案する。

施策項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
(16) へき地教育の充実	少人数の特性を生かした、合同・集合・交流学習の推進	①地域の特性や少人数のよさを生かした教育課程を編成するとともに、一人一人の個性や能力に応じた指導方法・指導体制の改善・充実に努める。 ②複数学級の児童生徒の合同学習、各学校校間の集合学習を教育計画に位置付け推進する。 ③山形県酒田市八幡及び福島県北塩原村との交流学習を教育計画に位置付け推進する。	○教師と児童が一对一でも、対話を重視して、授業改善を図っている。 ○各学校の集合学習を取りまとめ、実践を共有した。	A(A) B(A)	問いに対する解決方法の見直しを持たせるキャリア形成が必要である。 各学校の教科指導計画にも挿入するよう依頼。集合学習を更に推進していく。 交流事業において訪問前の事前交流をオンラインにて計画する。
(17) 人権教育の充実	自他の人格を尊重し、共生の心を育む	①人権教育の全体計画を作成し、校内における指導体制の確立を図るとともに、人権に係る事項について共通理解、共通実践に努める。 ②人権委員会の機能化を図るとともに、「人権を考える日」の取組の充実に努める。 ③家庭・地域社会と連携し、ボランティア活動や社会奉仕体験活動、高齢者や障害者との交流等の豊かな体験の機会の充実に努める。	○人権アンケートを月に1度行い、児童生徒の様子を把握している。 ○年間2回程度の人権集会を実施している。 ○ピーチクリーダー活動を実施した(東中学校)	B(B) B(B) B (評価なし)	児童生徒の困り感を職員で共有し、全職員で関わる体制が必要である。 実施した後の振り返りをもとに、次の取組を充実させる。 学校SD委員会専門部会(連携協働部会)で、どのような学びができるか立案する。
(18) 特別活動の充実	集団の中での望ましい人間関係の育成	①特別活動で育てたい児童生徒像を明確にするとともに、具体的かつ実践可能な全体計画を作成し、計画的に実施する。 ②各教科等との関連を図りながら年間指導計画を作成し、全職員の間で共通理解、協力体制のもとで計画、実施、評価を通じた指導に努める。 ③学校生活への適応や人間関係の形成及び進路の選択等の指導に当たっては、ガイダンス機能を充実させ、定期的な教育相談の実施に努める。	○生徒会と児童会合同の話し合いを行っている。 ○学校行事等の評価を行い、次年度の教育課程へ反映させている。 ○教育相談を各学校とも重視している。	A(A) B(B)	小学校3校の児童会活動の実践を共有する。 カリキュラムマネジメントを推進する上で、各教科等の学びがどのように活かされているか評価することが必要である。 困り感のある児童生徒に対してソーシャルスキルトレーニングを実施して学校生活が送れるよう支援する。

施策項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
(19)総合的な学習の時間の充実	地域や学校、児童生徒の実態等に応じた主体的、創造的、協同的な探求活動の展開	①育てようとする資質や能力及び態度、学習活動、評価計画等について見直しを行い全体計画や年間指導計画を作成する。 ②他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や言語により分析し、まとめたりするなどの学習活動の充実を図る。 ③地域施設や地域人材を活用するとともに、活動の状況や成果を積極的に外部に公表し、地域の人々の理解や協力を努める。	○地域の特性を活かした学習テーマを設定した。 ○稲作、地域文化等について地域人材を活用して調べ学習が充実している。 ○地域の方の協力のもと田植えから収穫、もちつき体験が実施できた。(有銘校)	B(B) B(B) B(B)	子どもが取り組む課題を明確にする必要がある。 課題探求型の授業の推進する。 地域人材の活用を今後も推進する。
(20)学校評価の充実	学校組織マネジメントによる改善	①実態に応じた焦点化された学校重点目標を設定し、達成状況を把握・整理し、取組の大切さを検証することにより、学校運営を組織的・継続的に改善する。 ②学校評議員等の活用を努め、保護者や地域の人々の学校運営への参画及び学校評価の実施・説明・公表をし、学校評価システム(規定なし)の確立に努める。 ③開かれた学校づくりの取組(授業参観日、学校施設・設備の開放、ホームページの更新等)の充実を図る。	○保護者、児童生徒、学校職員からの評価を受けて、改善を図っている。 ○学校評議員と学校運営、地域連携について話し合いを行い、改善の方向性を示している。 ○授業参観を適宜実施している。	B(A) A(A) A(A)	学校の取組について成果指標をもとに保護者に理解を得ることについて課題がみられた。 学校と地域、保護者が連携して取り組むことができていく。 地域教育資源活用について、各学校が地域に対して働きかけるようにする。
(21)教職員研修の充実	教職員の使命感、資質・力量を高めるための研修及び学校経営の充実	①校内研修及び村教育委員会主催の各種研修会を充実させ、教師一人一人がプロ意識をもって日々の教育活動が展開できるような資質の向上を図る。 ②県へき地教育研究大会や県外研修へ派遣し、教育の今日的課題をいち早く捉え、教育実践や学校経営の改善・充実を図る。	○特別支援教育、ICT教育等で3校合同で充実させることができた。 ○県へき地教育研究会(渡嘉敷島大会)へ職員を派遣することができた。3校集合学習をオンラインで実施できた。	B(B) B(B)	各学校の課題に対応した研修をどのように支援していくか、学校との対話が必要。 複式学級の授業を他の学校の教諭が参観できるように計画をしていく。
(22)コミュニケーション導入推進	推進の組織体制づくりを進める。	・家庭・地域への情報提供・管理職、教職員の研修・先進地視察・推進に向けた研究	○学校SD委員会(地域・連携部会)において外部講師を招聘した学習会を開催できた。	B(C)	先進地域への視察を検討が必要である。

II 社会教育の充実
1. 社会教育の充実

施策項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
(1) 社会教育基盤整備・充実	市民の生涯学習の推進を図るため、社会教育施設・設備の整備や社会教育指導者の養成・確保など社会教育基盤の整備を進めるとともに、市民への多様な学習機会の提供及び家庭教育に関する親の支援、相談体制などの整備を図る。また、地域の教育力を高めるため、地域活動への支援を推進していく。	① 家庭教育学級 ② 社会教育委員研修 ③ 地域教育懇談会 ④ 子ども会活動 ⑤ 各種団体教室	① 1校は実施。2校が未実施であった。 ② 未実施 ③ 各字で懇談会を実施。 ④ 子ども会及び各字子ども会が年間を通して活動した。 ⑤ 村婦人会、青年会が休会中の為、事業未実施。		① 親同士が学習したいことを自ら企画し、計画的・継続的に活動を行うよう支援が必要。 ② 制度について検証し設置の検討を行う。 ③ 校区毎に実施等を含め開催方法を検討する。 ④ 字によっては、子ども会が無い字がある為、村子ども会・公民館・地域行事への参加で交流を図る。 ⑤ 村婦人会及び村青年会が休会中であることから、早期の活動再開に向けてサポートしていく必要がある。また、講座やサークル活動等については発表の場を設けるなど支援が必要。
(2) 社会教育活動の充実		⑥ 高齢者の生涯学習の充実 ⑦ 青少年協活動 ⑧ 公民館活動	⑥ 教育長杯グラウンドゴルフを計画していたが雨天により中止となった為、未実施 ⑦ 新春駅伝大会は、各関係機関との調整が難航したため未実施。 ⑧ 様々な活動を実施。また、夏休み期間の居場所づくりを実施した。 ⑨ 100周年記念事業として県芸術文化祭移動展を文化・スポーツ記念館と博物館の2箇所に分け実施。 ⑩ 企画展等、計画的に事業を実施した。 ⑪ 祝祭者（16名中）11名の参加があった。 ⑫ 博物館事業と連携し「第9コンサート」を鑑賞した。 ⑬ 利用者に図書館エクレストを聞きながら世代別のニーズにあった書籍の整備を行った。	B(B)	⑥ 予備日を設けるなどの対策が必要が検討する。 ⑦ 新春駅伝大会の在り方について検討する必要がある ⑧～⑬ 事業を継続的に実施するとともに事業内容に充実を図る。
(3) 社会教育団体の育成		⑨ 県芸術作品展の鑑賞 ⑩ 村立博物館各種事業 ⑪ 二十歳の集い ⑫ 芸術鑑賞 ⑬ 読書の推進			

II 社会教育の充実
2. 青少年健全育成

施策項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
(1) 地域子ども会活動の推進	豊かな心をもち、夢・実行力のある青少年の育成を目指して青少年は一人一人が多様な可能性を持った存在である。青少年が心身ともに健やかに成長することは、村民の願いであり、この願いを実現するために、学校・家庭・地域社会が、それぞれの教育機能を十分に発揮するとともに、三者が相互理解を深め、連携・協力して青少年の健全育成に取り組み、青少年が現在または将来において自己実現が図られるように、一人一人の個性を伸ばすとともに、社会性を養い、豊かな人間性の育成に努める必要がある。このため、社会の変化に主体的に対応し自らの問題や社会の課題に積極的に青少年を育成するための青少年活動を推進する。	<p>① 村子連育成会研修 (社会教育充実との連携)</p> <p>② 子ども会リーダー研修 (社会教育充実との連携)</p> <p>③ レク・スポーツ大会 (社会教育充実・成人教育充実との連携)</p> <p>④ 親子交流会</p>	<p>○ 育成者研修会は、リーダー研修と同時実施。</p> <p>○ 子ども会リーダー研修会は、村内5、6年生対象に名護博物館にて郷土文化について学んだ。</p> <p>○ レク・スポーツ大会、親子交流会を同時開催にて行った。</p>	B(B)	<p>○ 子供と育成者の減少に伴い、各子ども会の存続が厳しい状況にある。現在、2字の子ども会が活動休止している。</p> <p>○ 子供の人数が減少していく中で、育成者も一緒に各字や村の行事への参加協力を図り、より良い育成環境、活動ができる取り組みが必要である。</p>
(2) 青少年健全育成活動の推進		<p>① 新春駅伝大会 (社会教育充実との連携)</p> <p>② つつじカップ (バスケットボール大会)</p> <p>③ スポーツ・文化活動への助成</p>	<p>○ 村青少協の活動を学校SD委員会 (地域連携協働部会) と情報共有を図ることができた。新春駅伝競走大会については、道路管理者・道路規制範囲・交通関連事業者等、関連機関との調整により、公道での実施が困難となり中止の判断とした。</p>	B(B)	<p>○ 学校SD委員会と内容が重複する活動等があるため、今後のあり方について検討する必要がある。</p> <p>○ 新春駅伝競走大会については、開催方法を見直し実施へ向け取り組み。</p> <p>○ 東小ミニバスケットへ助成金を交付し、活動活性化に繋げる</p>
(3) PTA活動及び地域活動の充実		<p>① 東村童話・お話大会</p> <p>② 国頭地区童話・お話・意見発表大会</p> <p>③ 国頭地区PTA研究大会</p> <p>④ 九州ブロックPTA研究大会 (沖縄大会)</p>	<p>○ 村代表選考会を実施した。</p> <p>○ 地区大会 (大宜味村開催) への参加。</p> <p>○ 地区大会 (金武・宜野座開催) への参加。第4分科会にて有銘小学校PTAが発表。村教育委員会より全会へ職員2名が参加。</p> <p>○ 各分科会は沖縄県内6会場で行われた。村教育委員会より第5分科会に職員2名が参加。</p>	B(B)	<p>○ 大会運営等について、関係団体と連携し、継続して実施する。</p> <p>○ PTA研究大会への参加について、各会員へ参加呼びかけをする必要がある。</p>

II 社会教育の充実
3. 成人教育の充実

実施項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
(1) 各種団体リーダー養成の充実	<p>潤いと生きがいのある生涯学習社会を目指して</p> <p>今日の社会は、国際化、情報化、科学技術進捗及び少子高齢化の進行に伴い、様々な仕組みが直直される大きな変革の時代を迎えている。一方、個人生活においては自由時間の増大、社会の成熟化に伴う学習需要の増大等を背景に村民は自己の充実・啓発のため質・量ともに豊かな学習の機会を求めている。このため、村民が各自の自発的な意思により、必要とする分野の学習ができる機会を総合的・体系的に整備し、充実を図っていかねばならない。</p>	<p>①生涯学習講座の開催</p> <p>②各種団体リーダー養成講座の開催（福祉研修会）</p>	<p>○未実施</p> <p>○村婦人会、村青年会休会の為、未実施。</p>	C(B)	<p>○生涯学習の振興を図るため各種活動や、その機会を活用しニーズに合致した事業を実施する。また、村婦人会及び村青年会が休会中であることから、早期の活動再開に向けてサポートしていく必要がある。</p>
(2) 高齢者の生涯学習の充実	<p>このため、村民が各自の自発的な意思により、必要とする分野の学習ができる機会を総合的・体系的に整備し、充実を図っていかねばならない。</p>	<p>①高齢者向け講座・研修（福祉連携）</p> <p>②教育長杯グラウンドゴルフ大会（社会教育充実との連携）</p>	<p>○未実施。</p> <p>○村老人クラブ連合会と連携し、準備を進めたが悪天候により中止。</p>	C(C)	<p>○各大会及び事業について、関係団体と連携、協力し継続して実施する。また、各大会などについては予備日を設けるなどの対策が必要か検討する。</p>

II 社会教育の充実
5. スポーツの振興

施策項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
(1) 生涯スポーツの推進	健康で心豊かに生きるための健康教育の充実及びスポーツの振興を目指して 社会生活の多様化や週休二日制の導入により、近年健康づくりや体力づくりを目的とした軽スポーツやレクリエーションに対する欲求は高まっている。本村のスポーツの振興にあたり、スポーツ推進員の登用や軽スポーツの普及、スポーツイベントの開催、さらには村及び学校体育施設の開放、社会体育施設整備の充実を図り、諸施策を推進していく。	①村体育協会主催大会 (体育協会との連携) ②全国巡回ラジオ体操 (7月) ※村制施行100周年事業実施イベント ③村老人婦人レクスポーツ大会 (11月開催) (社会福祉協議会との連携) ③つつじマラソン大会 (3月開催) (つつじ祭り実行委員会との連携)	○コロナ禍が明け、年間行事どおり各競技を実施した。 ○村営屋外運動場にて354名が参加し実施。 ○予定通り実施した。 ○予定通り実施した。	A (B)	○社会体育施設の利用者が定着してきており、今後は地域住民が主体的に取り組むスポーツ活動の環境づくりを検討する必要がある。 (継続)
(2) 社会体育施設整備・充実		①村営体育館等の施設改修	○村営体育館の環境及びトレニング機器等の適正な管理ができた。 ○村営屋外運動場の適正な管理ができた。	B (B)	○屋外運動場の設備の老朽化に伴い、照明機器等、設備の改修を検討する。
(3) 体育・スポーツ指導者の育成		①各種サークルの充実 ②スポーツ推進委員各研修会への参加	○テニスパークル、健康教室など活動を継続している。 ○未実施。	B (B)	○地域で活躍できる指導者の発掘・育成、地域のアスリートから地域の指導者への連携、指導員養成や確保に努める。(継続)
(4) 村営体育館等の施設の運用・管理の充実		①管理職員を配置し、村営体育館等の適正な運営。 平日：午前9時～午後9時まで	○計画どおり体育館施設の開放ができた。 利用者数 29,396人 (R4 21,269人)	B (B)	○村営体育館施設内の機器等の劣化や不具合については、速やかに対応する。 ○村営体育館の土日開放に向け検討を進める。

II 社会教育の充実
6. 公民館事業の充実

実施項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
(1) 中央公民館活動の充実	公民館は市町村その他、一定区域内の住民のために実生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行いつつて住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。	①図書室図書備品 購入・管理	○中央公民館図書室の図書備品 942冊を整備した。	B(B)	○購入・廃棄する本の整理を行う。
(2) 公民館指導者研修の充実	公民館は市町村その他、一定区域内の住民のために実生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行いつつて住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。	①各教室及びサークル活動 (社会教育充実との連携) ・ 舞踊教室 ・ 空手・古武道教室 ・ ビアノ教室 ・ 三線クラブ (サークル活動) ・ 囲碁サークル (サークル活動) ・ ダンス教室 (サークル活動) ・ 舞踊 (サークル活動) ・ 手芸サークル (サークル活動)	○各種団体やサークルによる活動を通年実施した。	B(B)	○各世代のニーズにあった公民館講座の開催と各種団体の支援に取り組む (継続) ○講座やサークル活動等については、発表の場を設けるなどの支援が必要。
		②公民館夏休み居場所づくり ③東村公民館連絡協議会	○中央公民館において地域の子供達を地域で見守り、地域で育てることを目的に「公民館夏休み子ども居場所作り事業」を実施した。(利用登録者56名) ○休会中により未実施 (パークゴルフ大会)		○子供達が地域で安全に元氣よく育つ環境整備を図る。 ○目的に沿った公民館連絡協議会の運営を図る。

II 社会教育の充実

4. 郷土文化の振興

施策項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
(1) 文化財の保護・調査及び活用	<p>豊かな感性を育む郷土文化の振興を 目指して</p> <p>本村には、先人から永く受け継ぎ、築き上げられてきた生活文化やそれらの基である文化財、そして世界的にも誇れる豊かな自然がありま す。これらのものは、村民共有の財産であり、それを保存・保護し活用 を図っていくことは、村の更なる発 展及び活性化に必要不可欠なことで す。また、次代を担う児童生徒及び 多くの村民が様々な文化資料によ り、優れた芸術を鑑賞し、そして多 くの体験をすることにより、村内外 の文化への理解を深めることを目標 に事業を展開していく。</p>	<p>①国・村天然記念物の管理・保存</p> <p>②ノグチゲラ保護・研究活動の推進 (村島・泉島・特別天然記念物)</p> <p>③文化財保護審議委員会の充実</p> <p>④村文化財と指定の調査及び検討</p>	<p>○国・県や民間と連携して天然記念物の管理保 存・調査することができた。</p> <p>○慶佐次ヒルギ林の遊歩道周辺維持管理</p> <p>○「慶佐次湾のヒルギ林保存活用計画策定業務」 の実施</p> <p>○サキマサオウノキ周辺維持管理</p> <p>○オガタマノキ周辺維持管理</p> <p>○絶滅危惧種オキナゴキ保護活動(博物館敷地 内)</p> <p>○ノグチゲラ保護監視員の配置・パトロール</p> <p>○ノグチゲラ保護区草刈り作業</p> <p>○ノグチゲラ衝突事故防止対策</p> <p>○ヤンバルクイナロードキル啓発活動(連携・啓 発看板設置)</p> <p>○ヤンバルクイナ保護増殖活動(継続)</p> <p>○沖縄森林管理署との「ノグチゲラ保護に係る連 携と協力に関する協定」の更新と合同現地調査の 実施</p> <p>○東村文化財保護審議会の実施(年2回)</p> <p>○国頭地区文化財行政連絡協議会研修会</p> <p>○村内聞き取り調査</p>	<p>A(B)</p>	<p>○天然記念物指定範囲や隣接地域等は地 域及び各関係団体と連携し保護活動の実 施を継続する。</p> <p>○ノグチゲラ保護監視員の育成を図り、 継続的に繁殖など確認が必要。</p> <p>○文化財調査による保護・活用を必要と するが、</p>

II 社会教育の充実

4. 郷土文化の振興

施策項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
(2) 芸術文化の振興		<p>①文化芸術鑑賞事業の充実 (社会教育充実との連携)</p> <p>②東村文化協会の設立</p>	<p>○語り聞かせ鑑賞会(東・有銘幼稚園)</p> <p>○博物館事業と連携し「第9コンサート」を鑑賞</p> <p>○沖縄県芸術文化選抜展の開催</p>	B(B)	<p>○その他の村民参加の拡充を図る。</p> <p>○文化協会の設立に向け、近隣市町村の現況等を聞き取りし進める。</p>
(3) 村立博物館の運営の充実		<p>①博物館の管理運営</p> <p>②博物館運営協議会の充実</p> <p>③博物館企画展・講座の実施</p>	<p>○入館者11,015人(前年度9,829人)</p> <p>○村内農泊見学受け入れ(年間3,530人)</p> <p>○野鳥等傷病鳥獣保護活動</p> <p>○村内小学校総合学習等受け入れ</p> <p>○博物館運営委員会開催(2回)</p> <p>○沖博協会の研修会(名護市)</p> <p>○沖博協会の総会(書面決議)</p> <p>○やんばるジュニアつじクラブ(計4回)</p> <p>○夏休み企画展「東村のふくじ川」</p> <p>○企画展「雨ごいガエルと水」</p> <p>○企画展「ヤマジン展」</p> <p>○講演会「沖繩の過去・現在・未来を見つめて」 比嘉涼子氏</p> <p>○企画展「福地川にひそみしものたち」</p> <p>○100周年記念共催企画「第8回やんばる星まつりin東村」</p> <p>○共催企画「環境省イベントマントングロープと集落さんぽ」講師</p> <p>○広場コンサートvol.3(宮城里美さん)</p> <p>○愛鳥週間ミニ企画「ワタシハダレデショウ？」</p> <p>○講座「しまくとぅば講座 初級編」(計3回)</p>	A(A)	<p>○職員や学芸員の講習会等への参加を促し、職員の資質向上を図る。</p> <p>○計画的に協議会を開催する。</p> <p>○通常の営業に戻り、多くの企画展や講座の実施ができた。継続して各種講座の充実を図る。また、今後も博物館紀要も職員による調査研究等の報告ができるよう取り組みたい。</p>

II 社会教育の充実
4. 郷土文化の振興

施策項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
		<p>④博物館機能高度化事業</p>	<p>○講演会「川田村発祥伝承と仲北山の時代」 ○企画展「ECF東村に出張中！Vol.2」 ○講座「福地川あそび」 ○100周年記念講演会「天文学者渡部潤一 自然も宇宙のひとつ」 ○博物館紀要発行 ○実施設計の完了。</p>		<p>○博物館機能高度化に向けて計画的に事業の推進を図る。</p>
(4) 東村文化スポーツ記念館の運営の充実		<p>①記念館の管理・運営 ②記念館企画展・講座の実施</p>	<p>入館者数10,727人（前年度9,062人） ○スポーツの開催（年4回） ○なっちゃんの椅子ヨガ（月1回） ○漂着ゴミアート展（4月） ○E arth day action okinawaやんばる（4月） ○簡単おいしいサラダチキンと人参ラペ（5月） ○スポキネdeフリマ父の日企画（6月） ○Hazuki展（6月） ○小甲賀央里さんお話し会（6月） ○星さん 星空展（7月） ○「陽いづる」上映会（7月） ○「HAPPY SANDOWICH」上映会（7月） ○あなたの知らない収集の世界展（8月） ○ヤンパライズ展（8月） ○瑞慶覧宗愛裏千家お抹茶ワークショップ（9月） ○東村の「空と雪」展（10月） ○県芸術文化際選抜写真展（10月）</p>	B(B)	<p>○職員の講習会等への参加を促し、職員の資質向上を図る。 ○来館者の満足向上に繋がる企画展、講座等の充実を図る。</p>

II 社会教育の充実

4. 郷土文化の振興

施策項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
		③東村文化舞台発表会（中止）	<ul style="list-style-type: none"> ○パッチワークキルト展（11月） ○渡邊真美子さん書道ワークショップ（11月） ○キジムナーBABY展（2月） ○てしごと展（3月） ○村制施行100周年事業祝賀会にて各字舞台出演に伴い令和5年度の実施は見送ることとした。 		<ul style="list-style-type: none"> ○事業実施を計画的に取り組み、来場者増員に向けて周知活動の工夫を図る。また、予算の執行について検討、工夫が必要である。

III 教育行政の充実
1. 教育行政の充実

施策項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
教育行政の充実	(1) 教育施策推進体制の充実	①教育課題等に関する調査・課題把握・課題解決を図る。 ②各学校の教育活動を評価するとともに、学校に対する支援や条件整備等の充実を図る。 ③教育に関する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、報告書を作成し公表する。 ④「人材づくり、地域づくり」の諸施策や事業を推進するために関係機関との連携及び協力を強化する。 ⑤学校課題解決に向けて、幼稚園小中学校を計画的に訪問する。 ⑥村民の理解と積極的な協力を得るために地域教育懇談会を実施する。 ⑦小学校複式解消のための加配教諭配置に努める。 ⑧幼稚園教育の充実を目指し、幼保小連携教育等の調査。研究及び新たな施策を行う ⑨特別支援教育支援員の適正な配置に努める。 ⑩第5次東村総合計画や総合戦略における事業の推進に努める。 ⑪様々な場面における学校教職員の負担軽減に努める。	○個々の現場において専門員を派遣し学習に対する問題、家庭の問題等について対策することができた。 ○計画訪問において、教育委員等含め共通理解を図り支援策を検討することができた。また、対策のための設備を整えることができた。 ○点検評価を毎年実施することができた。 ○各学校に対して、地域教育資源を活用する良さを伝え、それぞれの学校が実践できた。 ○計画的に学校訪問を実施し、管理者を始め教職員等と直接話し合いを持つことができた。施設の巡回、不具合箇所を指摘し、改善に向けて取り組むことができた。 ○6字で実施し、教育行政への村民への理解を深めることができた。 ○小学校において、複式解消が図られた。 ○国頭地区幼児教育研究大会に幼稚園教諭（2名）を派遣することができた。 ○支援委員会を通して個々に合った配置ができた。	A(A) A(A) A(A) A(A) A(A) A(A) A(A) A(A) A(A) A(A) A(A)	○専門家等の要請に対し関係機関と連携強化を図る ○施設の老朽化に伴う修繕箇所の増加や教育需用に対応するため迅速に対応する ○次年度に活かせるよう実施時期を早める ○地域教育資源の活用を今後も推進 ○授業改善を図るため授業参観の視点を事前に周知する。 ○開催方法を検討し実施する。 ○希望する人数の配置ができない場合の複式学級の在り方を検討 ○保幼接統が保護者の了解のもと、引継ぎがされている。 ○校内及び村支援委員会の機能化により、今後も適切な配置に努める。 ○より具体的な計画に対する共通理解を進める必要がある。 ○36協定の締結を始め職場環境に対する意識改革を進める。

III 教育行政の充実
1. 教育行政の充実

施策項目	目的	事業概要	成果	評価	課題		
3. 教育委員会の充実	(2) 施設・設備・環境の整備	⑫ 不登校や生徒指導上の問題等に学校や関係機関等と連携を図り、問題改善、解決に取り組む。	○生徒指導については福祉保健課との連携が図られたが、その他関係機関と連携を図る必要がある。	B(A)	学校と連携する上で、子どもと保護者がどのような思いを持っているのか把握し、よりよい改善を図っていく必要がある。		
		⑬ 小学校へ外国語指導助手を配置し、英語教育の充実を図る。	○小学校3年生から系統した指導が行われている。また、集合学習において、アウトプットの場も確保されている。	A(A)	小学校1・2年生での外国語活動の実施も検討		
		⑭ 地域と連携した特色ある地域コミュニティスクールの推進を図る。	○学校SD委員会（地域連携部会）において外部講師を招いての学習会を開催できた。	B(C)	先進地域への視察を計画。		
		① 社会教育施設・村立博物館の充実を図る。	○社会教育施設はコロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症となり充実した事業運営ができた。	A(A)	引き続き企画立案から計画的に実施するよう取り組む		
		② 学校現場の教育的にニーズに対応した教育環境の整備を図る。	○学校計画訪問等により随時対応できた。特にコロナ禍においてその対策ができた。	A(A)	継続的な実施		
		③ 学校の諸行事等を支援するために学校支援ボランティアを促進する。	○各現場において要望に応じた対応ができた。	A(A)	継続的な実施		
		④ 学校給食センターのスムーズな運営に係る設備等の充実を図る。	○検食用冷凍庫を整備した。	A(A)	継続的にスムーズな運営を図る		
		⑤ 統廃合後の学校施設・備品の合理的かつ有効的活用に努める。	○経年劣化等により使用不能な備品等については適正に処理することができた。	A(B)	引き続き適正な管理を行う		
		⑥ 学校施設長寿命化計画を基に各学校施設の改修・修繕等を図る。	○各学校との綿密な調整を図り学校施設の維持管理が図られた。	A(A)	計画的に改修・修繕を行う		
		3. 教育委員会の充実		① 教育委員会議のさらなる活性化を図る。	○教育委員会の開催にあっては、委員が参加しやすい日程に努めた。	A(A)	全日程においてほぼ全員が参加できた。
				② 教育行政の当面する課題等について理解を深め、文教施策を推進する。	○県、地区等の研修会に参加することにより教育現場の課題等の理解を深めることができた。	A(A)	課題のより良い解決について、国、県に要望する必要がある
				③ 社会体育・社会教育等の当面する課題等について理解を深め、社会教育施策を推進する。	○教育会議において、本村の社会教育の現況報告等を行い、理解を深めることができた。	B (評価なし)	本村の現状等を情報共有を図り、更に推進していく

III 教育行政の充実
1. 教育行政の充実

施策項目	目的	事業概要	成果	評価	課題
		<p>④ 事務の効率化と資料の整備、諸施策や事業の計画的な広報活動を実施する。</p> <p>⑤ 教育長・教育委員及び教育委員会職員による研修・視察等を行い、教育行政の改善を図る。</p> <p>⑥ 12月1日「東村教育の日」及び12月教育月間の周知・普及を図る。</p>	<p>○校務支援システム導入や、働き方改革の推進ができた。</p> <p>○国、県、地区主催の研修等に参加することができた。</p> <p>○沖縄県教育の日及び東村教育の日については、幅広く村民に対する周知ができなかった。</p> <p>○総合教育会議を予定通り開催し首長部局と共通認識を図るよう努めることができた。</p>	<p>A(A)</p> <p>A(A)</p> <p>C (評価なし)</p> <p>A(A)</p>	<p>制度の理解度を深めるため継続的に研修会の実施</p> <p>引続き、研修会の参加を行う。</p> <p>教育の日の普及・周知を図るため、取組内容を検討する。</p> <p>今後も継続的に実施を行い、年に数回開催する。</p>
	(4) 総合教育会議の継続実施	<p>①首長部局と連携を図り、総合教育会議を毎年度開催することにより総合計画等に位置づけた方針や施策の推進を図る。</p>			

点検評価委員による意見

はじめに、令和5年度の点検・評価がまとめられた教育委員会担当者による主要施策の報告説明がありました。

会議においては、冒頭に村教育委員会の任期や教育委員会会議における議案審議等の説明をもらい、具体的な事業報告をいただき、教育委員会の事業の取組に当たっての成果や課題について協議を行った。

以下、事務局の説明を受けて主に話し合われたことについて、総合的に評価をまとめた点検・報告書に対する意見を述べておきたい。

また、東村教育行政における今後の事業執行等の地方教育行政の組織及び運営に関する参考になれば幸いです。

I. 学校教育の充実

(1) 学力向上の推進

1. 令和4年度に比べ学力も向上し、家庭と地域との連携もとれてきていると思う。また学校での教育資材の導入、オンラインでの村学習塾等恵まれた環境でとても充実していると思われる。今後は、学校教育で学んだ事を家庭に活かし、繋げていけるのか検討する必要がある。

(7) 生徒指導の充実

1. 小さな村でどうしても不登校が多いのか、不登校の児童生徒にどのように地域が関わっていけばいいのか難しい面がある、今後の課題ではないか。
2. 不登校の保護者や児童生徒が民生委員等に相談しにくいことがある場合がある。その他に相談等が行える体制整備が必要ではないか。

(22) コミュニティスクール導入推進

1. コミュニティスクール導入推進において、人材確保が厳しければ、教育に関心のある方々や社会教育と連携を図りながら、婦人会、老人会も巻き込んで人と交流を通して一緒に活動してはどうか。各種団体との関りを村として考えてほしい。

Ⅱ.社会教育の充実

1. 社会教育の充実

1. 各種団体のリーダー養成、人材づくりの支援を切に希望します。
2. 親世代や青年会、成人会等の対象世代が地域行事への参加が少なくなっている。それと同時に、子ども会活動等への参加も少なくなってきているのではないか。

4. 郷土文化の振興

1. 記念館、博物館は多彩なイベントを行っているので、とても良いと思いますので、引き続きイベント等を行ってほしい。
2. 博物館、文化・スポーツ記念館等、児童生徒にもっと親しみを持たすために学校教育と連携を行う必要がある。

令和6年8月22日

点検評価委員

吉 元 博
北 島 しのぶ
仲 嶺 久美子